

第4回 法曹専攻 教育課程連携協議会 議事概要

1 実施日時及び実施会場

日 時 令和8年3月17日(水) 16:30~18:00

2 出席者

(委員) 佐野知子、伊藤茂昭、小松夏樹、難波孝一、直井義典(法曹専攻長)
(法曹専攻) 大石和彦、姫野博昭、村山淳子、森田憲右、渡邊卓也、尾崎愛美、
日野辰哉、吉田大輔、北尾仁宏

3 議事

- (1) 令和7年司法試験について
- (2) 令和8年度入学者選抜試験について
- (3) 認証評価・FDについて
- (4) その他

4 議事概要

直井専攻長より、資料に基づき議題の趣旨について説明のうえ、学外委員との意見交換を行い、以下の点が重要論点として示された。

・未修者の合格率が大きく低下しており、最重要課題として改善が急務であるとの指摘があった。年次による優秀層の偏在、コロナ禍による学修停滞、長期履修者の増加など、複数の構造的要因が影響していることが共有された。

・論理的思考力・分析力をより正確に把握するため、未修者入試を論述1問+客観式1問に変更する方針が説明され、学外委員からも妥当との意見があった。また、出願者数が増加している背景を把握するため、受験者への動機調査の必要性も指摘された。

・主語・述語の欠落、接続詞の不適切使用など、基礎的な文章力の不足が法的思考の定着を妨げているとの指摘が複数の委員からあった。また、専攻内でも指導しているが、改善には入学段階で一定の能力を確認する必要性が示された。

・修了生アドバイザーボードや、複数回不合格者を支援する「リベンジの会」など、修了生の経験を教育改善に反映する仕組みが紹介され、今後も継続すべきとの意見があった。また、合格者報告会や後輩指導ボランティアなども実施されており、学生支援の強化につながっている。

・昨年実施したCBTトライアルでは、ソフトの理解不足やWi-Fi環境不良により十分に機能せず、12月・2月の導入は断念したことが報告された。また、司法試験のCBT化に向け対応が必要だが、予算確保が難しく、最速でも12月導入見込みであり、財政的制約から学生負担の可能性もあることが共有された。